

2020年10月23日

公益社団法人 大阪自然環境保全協会

自然体験イベント事故情報

事故名	自作の弁当で食あたり	被災者	年齢 50歳台	性別 男
事故状況	発生日時 2020年8月29日（土）15時頃			
	発生場所 公園・ <u>里山</u> ・海・川・溪谷・その他（ ）			
	事故状況（何をして、どのように、どうなった） 来年度の講座のフィールドの下見を、大和葛城山で実施。当日朝に自宅で作った弁当を食べて、食あたりを発症。 メニューはおにぎり、卵焼き、缶詰。前の2つは本人手作りで、おにぎりはラップで包んで、缶詰も朝に開缶してラップに包んで持参。 12時頃に野外で弁当を食べ、14時半頃ロッジに戻ったところで、食あたりを発症。 嘔吐・下痢を催したのでロープウェイで下山し、救急車で病院へ搬送。			
事故処置	誰が、どのように処置 同行のスタッフ2名の看護を受けながらロープウェイで下山し、登山口から救急車で中山記念病院に搬送。急性腸炎と診断され、点滴を受けて回復後帰宅。 翌日、保険の申請を行うが、「食中毒」は保険の対象外。			
	ケガの部位・症状 嘔吐・下痢。診断＝急性腸炎。			
	推定原因と再発防止策は（分かる範囲で記入下さい） ＜被災者の再発防止策＞ 宿舎に戻った14時半頃には何ともなく、戻ってから梅シロップと半解凍のお茶を飲んだ後に気持ちが悪くなり、そう思った瞬間から腹の調子が悪くなり、冷や汗が出てきて、嘔吐や下痢に見舞われたことから、食べ合わせや精神的なものも含んだ食あたりが原因と思っています。この経験を生かして、今後、食べたり飲んだりする者には十分気を付けたいと思います。			
総務部会コメント	○今回の食あたりの原因については、ご本人の記述でも不明な点が多いが、8月下旬という高温期においては、自作の弁当については、調理段階だけではなく、食べるまでの保管場所についても十分な注意が必要だと思われる。 ○本人のコメントでは、非常に暑い野外で活動していたので、熱中症の可能性もあるとのことであったが、そのような身体が弱っている状況では、より安全で消化の良いものを食べるように心がける必要がある。			